

世界のチェンジ

平和祈念礼拝 2016/8/7

シリーズ～チェンジ～

イザヤ書2章1～5節

アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて幻に見たこと。

終わりの日に／主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち／どの峰よりも高くそびえる。

国々はこぞって大河のようにそこに向かい多くの民が来て言う。「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」と。

イザヤ書2章1～5節

主の教えはシオンから
御言葉はエルサレムから出る。
主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち直して鋤(すき)とし
槍(やり)を打ち直して鎌(かま)とする。
国は国に向かって剣を上げず
もはや戦うことを学ばない。
ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。

「終わりの日」が来る

• 預言者イザヤ

- 紀元前8世紀,南ユダ王国の王宮預言者
- イスラエルと周囲の国々への裁き,さらには世界の終わりについて預言した

• 「終わりの日」とは世界の終わりのこと

- 小さな国の名もなき預言者が世界の終わりについて預言している

• この世界を始められた方が,この世界を終わらせる

主なる神だけを礼拝する

- 終わりの日には、**誰が本当の神であるか明らかに**なり、全世界が礼拝する
 - 「主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち／どの峰よりも高くそびえる。国々はこぞって大河のようにそこに向かい…」
- もし神がおられるなら**唯一絶対**である
 - 他の神々を信じる意味は全くない
 - 日本人は「信心」が大切と言うが、大切なのは誰を(どの神を)信じるかである

主の教えを学び従う

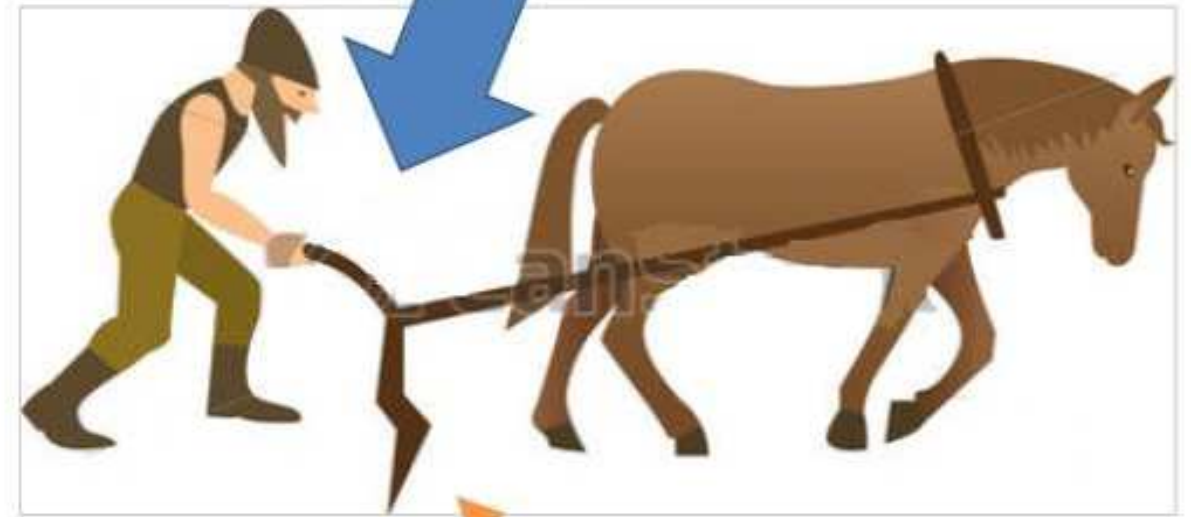
- 世界中の人々が主なる神の教えを学び従う
 - 多くの民が来て言う。「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」と。主の教えはシオンから／御言葉はエルサレムから出る。
 - 聖書の教えは全人類の宝である
- 主なる神はイスラエル民族だけの神ではない
 - 紀元前8世紀の預言者に理解できただろうか？

争いは裁かれ,国はなくなる

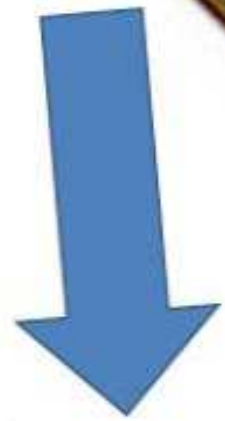
- 戦争そのものが裁かれる(どちらかではなく)
 - 「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。」
 - 当然キリスト教国も裁かれる
- 「国」(国境)が争いの原因
 - 「国は国に向かって剣を上げず」
 - そもそも地球に国境はない。勝手に境界を決めた
 - 「**国益**」こそ最も愚かな発想!

戦うことを学ばない

- すべての武器はなくなり、暮らしの道具となる
 - 「彼らは剣を打ち直して鋤(すき)とし／槍(やり)を打ち直して鎌(かま)とする。」
 - 旧約時代、パレスチナでは普通に行われていた
- 戦わないだけではなく、戦いを学ばない
 - 自国の利益や優越を学ぶことによって、他国への敵意や憎しみを植え付けられている
- すべてが明らかになる
 - 「ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。」



槍(やり)



かま

世界のチェンジ(終末)

- **創造主はこの世界を終わらせる**
 - 人間が破壊し,混乱させた世界
- **誰が本当の神であるか明らかにになる**
 - すべての人々が主を礼拝し,主に従う
- **戦いは終わり,完全な平和が訪れる**
 - 武器はなくなり,戦いを学ばない